

「特別の教科 道徳」のこれから
－教科書導入と教科書活用の視点から－

The Future of “Morality, a special Subject”
－From the Perspective of Implementation and Usage of the Textbook－

尾崎 雅斗（発達教育学専攻教育学領域）

1 問題意識と研究目的

本研究は、これからの道徳教育にはどのようなことが求められていくかを明らかにし、そこから考えられる理想の道徳科の教材とはどのようなものかについて検討していくことが目的である。

2014年2月に、文部科学大臣から、道徳教育の充実を図る観点から、教育課程における道徳教育の位置付けや道徳教育の目標、内容、指導方法、評価について検討するよう、中央審議会（以下、中教審）に対して諮問がなされ、中教審は、同年3月から道徳教育専門部会を設置し10回に及ぶ審議を行い、教育課程部会、総会での審議を経て、同年10月に「道徳に係る教育課程の改善等について」答申を行った。この答申では、①道徳の時間を「特別の教科 道徳」（仮称）として位置づけること、②目標を明確で理解しやすいものに改善すること、③道徳教育の目標と「特別の教科 道徳」（仮称）の目標の関係を明確にすること、④道徳の内容をより発達の段階を踏まえた体系的なものに改善すること、⑤多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善すること、⑥「特別の教科 道徳」（仮称）に検定教科書を導入すること、⑦一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実すること、などを基本的な考え方として、道徳教育について学習指導要領の改善の方向性が示された。そして、小学校では2018年度から、中学校では2019年度から、道徳の時間が、「特別の教科 道徳」として教科化され、全面実施された。道徳の教科化によって、教科書が導入され、評価が必須事項となり、道徳科の授業を毎時間確実に行うことが求められるようになる。

私は2021年度末で、小学校の教員として11年7ヶ月間、勤務することになる。2020年度・2021年度には、道徳教育推進教師も任せられた。私が担任した学級では、かつては道徳の時間の授業を他の教科や学活の授業へと割り当てたことがあるが、他の教員にとっても年間35時間しっかりと道徳の授業を行ってきた学級は、むしろ稀であるのが実情であった。また教師としての勤務は多忙で、毎日の教材研究をする時間の余裕もほとんどない。そこで、今まで使われていた道徳の副読本や現在使われている「特別の教科 道徳」の教科書に焦点を当て研究をすることで、道徳の授業をする上で大切なポイントや配慮事項を浮き彫りにし、現場の先生方の負担が少しでも少なくなるように、ま

た自信をもって授業ができるようになってほしいと考えた。

以前の道徳の副読本や現在の教科書の教材は、子供が道徳の授業を後から振り返ったときに、印象に残らないものが多い。授業で、考え、議論しようとしても、子供は、「こう答えればいいのかな」という思考に陥ったり、自分事として捉えられず、冗談を言ってしまったりする姿が見られる。しかし、子供が興味・関心をもてる題材であれば、もっと子供が前のめりになって考え、議論しようとするのではないかと考えた。だとすれば子供が興味をもてる題材とは何かを明らかにしなければならぬ。そして、考え、議論する「特別の教科 道徳」を実践する上で着目されている発問と板書計画に焦点を当てて考察する。

私は、将来道徳の教科書に掲載される教材を書きたい。そう思うようになったきっかけは、以前自分で題材を書いて授業をしたときに、子供たちが前のめりになって議論していた様子が忘れられないからだ。そして、教科書の研究を進めることで、より子供たちが真剣に考え、議論し、それを扱う教師にとっても魅力的な教材が書けるのではないかと考えた。道徳が教科化され、そのあり方が重要だと考えているため、道徳の副読本や教科書についての研究を行いたいと考えた。

2 論文構成

はじめに

第1章 道徳教育と教科書

第1節 そもそも教科書とはどういう存在か

- 1 教科書とはどういう存在か
- 2 教科書が必要とされる理由
- 3 検定教科書の審査基準

第2節 道徳科の検定教科書の導入・考え方

- 1 「特別の教科 道徳」の検定教科書が導入された背景
- 2 「特別の教科 道徳」の検定教科書の審査基準
- 3 「特別の教科 道徳」の教科書に対する批判

第2章 「考え、議論する道徳」のための教科書活用の検討

- 1 「考え議論する道徳」のための手立てとは

- 2 発問について
- 3 板書計画について

第3章 「考え、議論する道徳」のための自作教材の開発

- 1 自作教材の開発
- 2 「自分自身の感動を子供に伝えたい」鈴木健二の実践
- 3 「道徳授業を〈敬愛する人〉でつくる」堀裕嗣の実践

第4章 「考え、議論する道徳」のための教材開発と実践

- 1 概略
- 2 「守るべき家族」実践報告
- 3 「休校になって」実践報告
- 4 「坂田先生」実践報告

第5章 「考え、議論する道徳」のための内容項目の理解

- 1 概略
- 2 内容項目 家族愛
- 3 内容項目 感謝
- 4 内容項目 個性の伸長

おわりに

参考文献一覧

3 論文の概要

第1章では、そもそも教科書が使われるようになった背景から、道徳科の検定教科書が導入された背景や審査基準までを、先行研究や教科書の編集趣旨書をまとめることで示す。ここでは、第2章・第3章・第4章でやりたいことに説得力をもたせるために、先行研究をまとめることで、道徳科にどのようなことが求められてきたかを明らかにする。

第1節では、そもそも教科書とは何か、つまり、教科書がどういう経緯で学校教育に導入されるようになったか、どういう基準で採用されてきたかについて示す。また、どうすればよい教科書ができるかについても、先行研究の内容をまとめる。

その結果、第1章、第1節では、そもそも教科書とは何か、つまり、教科書がどういう経緯で学校教育に導入されるようになったか、どういう基準で採用されてきたかについて示した。また、どうすればよい教科書ができるかについても、先行研究の内容をまとめた。

第2節では、道徳の検定教科書が導入された背景

や考え方について2014年10月21日の中教審答申「道徳に係る教育課程の改善について」などの関連文章をさかのぼって示す。また、「特別の教科 道徳」の教科書に対する批判があるので、それらをまとめる。

その結果、第2節では、道徳の検定教科書が導入された背景や考え方について2014年10月21日の中教審答申「道徳に係る教育課程の改善について」などの関連文章をさかのぼって示した。また、「特別の教科 道徳」の教科書に対する批判があるので、それらをまとめた。

第2章では、「考え、議論する道徳」のための教科書活用について検討していく。

教科書を活用することは、授業を構想することと大きく関わってくる。そこで、授業づくりのポイントをまとめ、手立てとして、発問と板書計画についてのポイントを示す。発問について、『小学校教育用語辞典』によれば、「授業者が、児童の深まりが広がるように問かける言葉が発問である」¹とされている。そこで、子供達に、上辺だけでなく深く考えさせるためにはどうしたらよいかということ突き詰めて検討していきたい。また、板書について、『小学校教育用語辞典』によれば、「板書計画」として、このように書かれている。「板書計画を考える時には、次のような板書の機能を意識するとよい。第一に、本時のめあてや指導内容を明示して、子供たちの理解を助ける。第二に、子どもの意見や反応を聞き取って、子どもたちの認識を深めたり、思考活動を活発にしたりする。第三に、学習活動を系統的に記録して、ノートに写させることによって、学習内容の振り返りを可能にする」²。板書は、発問が変われば自然と変わっていくものだと考えられる。また、子供が思考の整理をするのに役立つ、授業の足跡として、授業を振り返るのにも役立つものである。発問と板書計画の実践は、筑波大学付属小学校の加藤宣行教諭の実践を中心にまとめる。なぜ加藤宣行教諭の実践をまとめるかということ、現役の教員として何冊も本を出版しており、現役の教諭として道徳の教科書の監修にも携わっているからである。私は、加藤宣行教諭の授業を受講するために筑波大学付属小学校に行き、模擬授業を受けた。ここでは、今までの答えが分かりきった授業ではなく、深いところで考えさせ、心に訴えかけるものがあつた。そのため、より一層加藤宣行教諭の発問や板書について研究してみたいと考えた。授業づくりにはいろいろな視点があるが、その中でも発問が一番肝心だと考えた。また、発問が変われば自然に板書も変わってくる。

その結果、第2章では、発問と板書についてのポイントを浮き彫りにした。筑波大学付属小学校の加藤宣行教諭が実践しているテーマ発問、その中でも比べる

という手法や、それに伴って板書も左から右へ構造的に書くことで、視覚的に捉えやすくすることが求められるようになるのではないかとという方向性が伺えた。

第3章では、自分自身が魅力的な題材を開発していくために、どういう条件を備えた題材が求められているかについて分析していく。まず、愛知教育大学の鈴木健二教授によれば、新聞や絵本、ポスターなど、日常生活にあるものが教材化できることを述べている。また、教師の感動を大切に、何でも素材になるという意識をもち、質より量を意識するとよいと述べている。札幌市立中学校の堀祐嗣教諭の先行研究では、敬愛する著名人や1枚の写真から教材開発できることを述べている。さらに、題材に出てくる人物について、教師が遠く感じるならば、近く感じられる人物、本気で尊敬できる人物を扱えばよいと述べている。

その結果、第3章では、鈴木健二教授や堀祐嗣が先行研究しているように、日頃の教師の問題意識で生まれるような自作教材や授業が大切になってくるのではないかと結論が得られた。教師の感動や教師の敬愛する人物というのは、どの教師にも共通してあるものである。それを大切にして、教材を作っていくことが、これからは求められていくのではないかと。また、同様に、教科書に掲載される教材にも、このような要素が求められていくのではないかと考えられる。

第4章では、自分が考える理想の教材の条件について、自身の自作教材についての実践をまとめ、分析することで理想の教材の条件を明らかにしていく。ここでは、自作教材についての思いや内容を述べた上で、3つの自作教材についての実践報告と分析をしていく。

その結果、第4章では、考えられる理想の教材の条件について、自身の自作教材についての実践をまとめ、分析することで理想の教材の条件を明らかにした。まず、自作教材についての内容や思いを述べた上で、3つの自作教材についての実践報告と分析をした。

第5章では、新たな教材開発に向けて、「家族愛」、「感謝」、「個性の伸長」の3つの内容項目を取り上げ、どのような視点や条件が求められるかを検討することにした。

本研究では、これからの道徳教育について、どのようなことが求められていくか、さらに、自作教材の開発をテーマに行ってきた。

得られた成果として、自作教材の開発を通して、自作教材を作成するポイントは、教科書に掲載される教材にも同様に求められる視点ではないかと考えた。具体的には、授業の流し方を知ったうえで、①教師の感動を大切にすることや、②教師の敬愛する人物を題材にすること、③内容項目をしっかりと理解して作成することである。そして、自作教材から教科書に掲載さ

れる教材へとしていくために、このように考えた。

①教師の感動は、誰もがもつ人間の根底にあるものと置き換えることができないか。具体的には、誰もがもつ人間の根底にあるものに訴えかけていくことが大切ではないかということである。例えば、人に手を出すことはよくないということや、理論や法律などで決まっているからとするのではなく、人に手を出されたいやな気持ちになるという、自分事とすることが大切ではないかと考えた。

②教師の敬愛する人物を題材にすることは、時代にあった人物を題材にしたり、子供の問題意識を題材にしたりすることに置き換えられるのではないかと考えた。なぜなら、教師や子供が身近に感じられるという点が大切であると考えたからである。

③内容項目の理解については、学習指導要領の内容項目をしっかりと理解した上で作成することが大切であるということである。

その結果、「家族愛」、「感謝」、「個性の伸長」という内容項目について、子供の視点であったり、大人の視点であったり教科書の題材が作られており、一方で、内容項目によっては、同じように子供や大人の視点であっても、違う視点で教材を作成することができるのではないかとということが明らかになった。

さらに、浅見哲也は、『こだわりの道徳授業レシピ』で、このように述べている。これからの道徳であるが、「どのような未来を創っていくのか」、「どのように社会や人生をよりよいものにしていくか」という目的を考え出すことが大切になってくるのではないかと。それは、いくらAIが発達しても、それを扱いコントロールするのは、人間だからである。AIは、プログラムされたことは何でもやってくれる。けれど、目的を生み出すことはできない。だからこそ、人間がすべき方向性を示すということがこれからは求められていくはずである。そこで、道徳教育が重要になってくると考えられる。

残された課題として、以下の点を明示しておきたい。修士論文は、当初「道徳科の教科書のあり方と課題」というテーマで書き進めていく予定であった。しかし、道徳の教科書の研究をしていく中で、教科書を研究していくためには、教科書活用の視点と切り離せないと考え、テーマを変更した。現役の教員にアンケートを実施して、どの教材がよいと感じるかのアンケートも行えなかった。理由としては、アンケートを実施するための調査倫理を学んでいないことや、コロナウイルスによる学校の休校などの影響もあった。小学校の教員として長年勤務してきたので、その経験と感覚を活かし、現場の教員に還元できるような研究がしたい。

注

- 1) 間森誉司「発問」、細尾萌子・柏木智子編『小学校教育用語辞典』ミネルヴァ書房、2021、163頁
- 2) 中來田敦美「板書計画」、細尾萌子・柏木智子編『小学校教育用語辞典』ミネルヴァ書房、2021、177頁

4 主要参考文献

- ・青木一、大槻健、小川利夫、柿沼肇、斎藤浩志、鈴木秀一、山住正己、編『現代教育学辞典』労働旬報者、1988
- ・赤堀博行『道徳的価値の見方・考え方』東洋館出版社、2021
- ・浅見哲也『こだわりの道徳授業レシピ』東洋館出版社、2020
- ・岩内亮一、文吉修二、明石要一編『教育学用語辞典〔第四版(改訂版)〕』、学文社、2010
- ・貝塚茂樹『戦後日本と道徳教育 教科化・教育勅語・愛国心』ミネルヴァ書房、2020
- ・貝塚茂樹・関根明伸編『道徳教育を学ぶための重要項目100』教育出版、2016
- ・加藤宣行『加藤宣行の道徳授業 考え、議論する道徳に変える指導の鉄則50』明治図書、2018
- ・加藤宣行『加藤宣行の道徳授業 考え、議論する道徳に変える発問&板書の鉄則45』毎時図書、2018
- ・教科用図書検定調査審議会『「特別の教科 道徳」の教科書検定について(報告)平成27年7月23日
- ・『小学校道徳 学習指導書 研究編3』光村図書、2018
- ・『小学校道徳 学習指導書 研究編4』光村図書、2018
- ・鈴木健二『学級経営に生きる 5分でできる小さな道徳授業1』日本標準、2021
- ・鈴木健二『道徳授業をおもしろくする～子どもの心に響く授業づくりの極意～』教育出版、2017
- ・全国民主主義教育研究会『民主主義教育21 V o 1.12 新学習指導要領批判と主権者・憲法教育』同時代社、2018.4.15
- ・依義文『戦後教科書運動史』平凡社新書、2020
- ・中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善について」2014年10月21日
- ・寺脇研『危ない「道徳教科書」』宝島社、2018
- ・堀裕嗣『道徳授業改革シリーズ 堀裕嗣の道徳授業づくり 道徳授業で「深い学び」を創る』明治図書、2019
- ・細尾萌子・柏木智子編『小学校教育用語辞典』ミネルヴァ書房、2021
- ・「文部科学省ホームページ」
<https://www.mext.go.jp/a->

menu/shotou/kyoukasho/010301.htm (最終アクセス2021年1月6日)

- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月』廣済堂あかつき、平成30年2月20日
- ・山住正己『教科書』岩波書店、1970